

開会 令和5年2月3日
閉会 令和5年2月3日

足利市総合教育会議

足利市教育委員会

令和4年度第2回 足利市総合教育会議 会議録

- 1 開催日時 令和5年2月3日(水)
開会 午前10時30分 閉会 午前11時30分
- 2 開催の場所 足利市役所4階 特別会議室
- 3 出席者
市長 早川 尚秀
教育長 須藤 秀幸
教育委員 笠原 健一
教育委員 木村 知巳
教育委員 松村 由紀
教育委員 野口 直美
- 4 会議出席した事務局職員
行政経営部長
行政管理課長
教育次長
教育総務課長
生涯学習課長
学校教育課長兼教育研究所長
教育研究所次長
教育総務課庶務担当総括主幹
教育総務課庶務担当主幹
- 5 傍聴 傍聴者 なし
- 6 会議日程
市長挨拶

教育長挨拶

議題 「小中学生のスマートフォン等の適切な利用について」

7 会議の経過

○ 開会

○ 早川市長挨拶

スマートフォン等は、子供たちに様々な、そして大きな影響を与えているので、本日は、小中学生のスマートフォン等の適切な利用について、教育委員の皆様と意見交換をさせていただければと思っている。

○ 須藤教育長挨拶

スマートフォンやタブレット等の ICT 機器は、とても便利であり、私たちのこの生活様式にも影響を与えるなど、私たちの生活に密接に関わっている。

睡眠不足、視力低下などの健康被害、書き込み等での人権侵害、最悪、犯罪に巻き込まれたりするなど、子供たちにも直面をしているというふうに感じている。

小中学生の実態調査の結果をもとに、子供たち、教職員、保護者がこれからの学校生活、家庭生活に生かしていけるよう、様々な角度から意見交換ができればと思っている。

○ 議題 「小中学生のスマートフォン等の適切な利用について」

学校教育課長

小中学生のスマートフォン等の適切な利用について説明

市長

皆様からご意見をいただきたい。

笠原委員

足利の子供は、よりスマホやゲームの時間が長いということが問題だと思う。全国的には大きな問題になってないかもしれないが、足利の子供にとってはものすごく大きな問題になっている。

私ども教育委員も含めて、地域の問題として取り上げて、ゲーム時間で過ごす時間の長いことの弊害を、本人、家庭の親が再認識し、学校、教師が問題意識を持つことが必要。問題意識が少ないのは、足利市としての問題意識が少ない。

30分やめる。その30分をどう使うかまた家族で考える。

私は30分を10分ずつ三つぐらいに分けて、家での読書、睡眠時間に使う。睡眠不足だと授業のわかりも悪い。また、ゆっくりお風呂に入る、食

事をとる、家族と話すなど、家庭学習だけに向けるのではなく、いろいろな使い方をするとよいと考えている。

市長

松村委員いかがでしょうか。

松村教育委員

同じことを繰り返していくことでは、やはり変えられないということはわかったので、学校やPTA組織を通してっていうのでは、もう間に合わないと感じている。

研修会や講演会などを増やして参加呼びかけても、参加しない方には伝わらない。足利の子どもは、全市民で育てるとの考えで、全市民への呼び掛け、手段としてSNSを使ってはどうかと思っている。足利市として、スマホを使ってはいけない場所、時間を決めていってはどうかと考える。子供たちの声として、コロナのせいもあって、地域のいろいろな楽しい行事がなくなってしまった。そういうことだけではないが、ネット依存の悪影響を知らしめることも大切。

ネットに費やす時間をそのまま、子供たちの人生の中で楽しむ、夢に向かって学ぶ時間を増やせるような現代にあわせた若者向けの仕掛けを工夫して、プラス面で時間の過ごし方を考える手伝いを行政でしていただけたらと思っている。

市長

ありがとうございます。

木村委員お願いします。

木村委員

スマホの料金の低価格化などを考えていくと、更に普及してしまうと思っている。また、企業もスマホに全てコンテンツを詰め込むという流れの中では、スマホは切っても切れない様になっている。その中ですごく重要なのは、使い方と時間の配分の仕方を子どもたちに学ばせていくことだと思っている。

先ほど松村委員からもあったが、地域との関わりや地域のイベントがかなり少なくなっているのが、スマホ依存になりがちな世の中になっているのかなと思っている。どういう方向で、このスマホの依存時間を減らすかっていうのは、我々やPTA联合会といったところから、親に発信してもらおうというのが一番いいのかなと。例えば中学校3年生は12時まで、中

学校2年生11時、中学校1年生は10時のように分かりやすいルールを、行政や教育委員会が旗を揚げ、みんなで普及させていくのがいいと思う。

市長

野口委員どうぞ。

野口委員

例えば、1週間、子供たちにプリントを配って、1日ごとに、ゲームに使った時間、勉強に使った時間、デジタル図書館を使った時間、それ以外の使った時間を本人に書かせて、時間の使い方をどう思うか意見を書いて名前を書かせて、親の意見を書いて必ず提出させる。

書くことによって、自分でこの位少なくした方がいいということが意識できると思う。親も子供が、もうちょっとこうした方がいいっていう自覚ができる。というのを1年間でも、書くっていう時には考えると思うので、親も考えると思うので、そういうのがあってもいいのかなど。

市長

以前は、家庭の問題だと思っていた。自分の子供たちがスマホを持つようになったときに、なかなか家庭でも規制が難しいというのも正直思っている。といって、親の言うことを聞かないから、先生が注意したら言うことを聞くのかというと、そうとは言い切れないというところがあり、学校と家庭とでやらなくてはけない問題と思う。

リテラシー研修会に参加をして聞いた方がいい親は来ない。真面目な親から聞いて子どもを指導する。聞いて欲しい親は来てないので、そこの子供からLINEがくる。そして、他の子がやっているの、自分もそこに入りたがる。例外なく、みんなが使わなければ済むのに、なかなか難しいというジレンマに陥っている。

最近では、ネット依存で学校に行かない、家でも会話しない、勉強しない、体調不良というスマホの悪影響が見えてきたと思っているので、地道な啓発はしていかなければと考えている。

今回のこのアンケートでは、スマホの利用時間は聞いているが、スマホに絡むトラブルや体調不良について聞いているのか。

学校教育課長

直接、体調不良まではとっていない。

市長

もしかしたらそういうのもあるかもしれないし、結論にはならないが、難しいのだろうと思う。

勉強のために使っているという回答が、中1・中2が58%、中3が67%。勉強のためにスマホを使っていると言うが、その割に学力が伸びないと思っている。

スマホを利用しているっていうのは、学校側とするとどのようにとらえているか。スマホ以外で勉強する材料がないのか。スマホの方が便利なので辞書代わりに使っているのか。

教育研究所次長

すぐに言葉でも何でも物事を検索できる、そういった勉強の使い方が多いようだ。

教育長

昔、英語の単語も我々は辞書を引いてやっていたものが、今はもう音声やスペルを入れるだけ意味が出てきて、事務局が言ったように検索的などころで使っているところは多いと言われている。

市長

セキュリティアプリを通して、インターネットに入っていけば、使用時間の制限がかけられる。でも、別のところから入っていけば、いくらでもスルーして使えるという抜け道がある。今の子供はそういうのがすごくたけている。

どういうソフトがあって、それだったら有効なのかなというのは、親も勉強しなくちゃいけないなと思いながら、接しているところ。

結論はないが、引き続き、学校でも、家庭でも、トラブルを恐れずに指導していくしかない。

副市長

子供の自覚を促す努力を繰り返して行うことが、まず必要だと感じた。スマホを使わない小学2・3年生から、スマホを使うところであるとか、こんなことに注意するように話し、繰り返していく。携帯ルールは、年齢に合わせてバージョンをふやした方が効果的だと感じたところである。

中学生の場合は、スマホを使ったコミュニティの関係が自然にできていて、そこに入ってかないと仲間はずれのようにされることもある。スマホを使わないコミュニティの形成みたいなものは、かなり難しいので、使い始

める前から、こういう形で友達と交流できるという取り組みを進めていただければと効果的と感じた。

一方、学校の中でデジタル技術を習得する時間があれば、その利便性と危険性を学ぶことを続けていただければ宜しいと感じた。

市長

委員からご意見・ご質問があれば、ご発言をお願いしたい。

笠原委員

これはもう児童生徒個人の問題でもない、家庭の問題でもない、むしろ社会の問題だと思う。

ノー・スマホデーを作った時のリーフレットは、今となっては合わないものがあり、もう現実無理だと思う。

教育委員会も、令和5年度学習指導の方向性で、スマホとかゲームについての子供たちのその生活習慣とか接し方について、さらに問題意識をもって取り組んでいただけると聞いていますが、まさしく社会問題地域の問題として、全市を挙げて考えていただくこともお願いしたいと思う。

市長

確かにスマホを利用すること自体が悪いということにではなく、うまく活用していくことが必要。時間の際限なく使い続けることが問題である。自分を律してコントロールするのは、なかなか難しい。

部活動、スポーツとか、受験勉強という目標を持って、そっちを優先して、スマホやゲームをすることを律することができればいいが、そうではない子供たちやその家庭をどうするか。

笠原委員

クラスを見れば、そのクラスの子はみんなそうである。だから自分1人頑張るとかそういうことはない。それは、クラスの中で、或いは、学校の1学年で考える。ところが他の市や県へ行くと、それが普通ではないわけである。

ですから、ルール作りとか、もちろんいい意味で活用するのは当然やるべきですし、それを抑える必要も全くない。ただ、無駄に睡眠時間まで削ってやっている、なんか本当に有効な面もあるが、いろんな危険もはらんでいるという議論をどれだけ押さえられるかっていうことを、やっぱり社会の問題として考えることをすればいいのかなと思う。

市長

確かに、他の自治体との比較っていうのは、わかりやすく書いてもいい。

足利市は、こういう状況ですよ。その反面、こういうことになっていますというのを、ちょっとセンセーショナルに出してもいいかもしれない。

その他どうでしょうか。

木村委員

足利市は、全国よりも使用頻度や使用時間が多いのかなと思っていて、この会議で認識した部分もありますし、そういったところも教育委員会としても発信していくっていうことが重要。

先程お話していた、クラスの中でSNSを使って当たり前みたいな雰囲気、他の県、他の市と比べて、足利は、ちょっとそういったものが多いっていうのは、やっぱり発信していくべき。

地域の中にいると、それが一般的に多いとか少ないか、当たり前が当たり前じゃないのかっていうところを認識してもらうことも非常に重要。

やっぱり使い方っていうのは非常に重要はなのかなと思っている。先ほど言った、スマホやITの使い方と時間の管理っていうところを、地道に子供たちにこう教えていくのがいいと思う。

市長

ありがとうございます。

松村委員どうですか。

松村委員

アンケート結果から見ても、私が驚いたのはフィルタリングをかけていないとか、かけているかどうかわからないという、割合がものすごく多い。

ということは、やはり家庭での話し合いがよくできていなかったり、教育力っていう面だけで見ると、弱かったのかなと感じる。

市独自のアンケートの資料1のところの中ですけども、どうしてそう弱くなってしまったかっていうのは、危機意識が低いのだと思う。

本当に、これは子供たちのために、少しでも考えを変えていかなきゃならない。やらなきゃなんないことが親にもあるということに気付いてもらっていないなど。また気付いていても、周りの親たちも全部ちょっと許してしまっているんじゃない、うちだけやってもっていう想いっていうのもあると思うので、地域として、例えば、おうちでも、みんな同じ意識で持っていてもらって、親を手助けすることになると思う。

地域で、みんな足利は、逆に先取りしてこういうことに取り組んだってい

うことで発信してもいいように思う。

そんなことで、地域での教育力とかを試されているような気がしますので、やはりしっかり考えて、皆さんで対応いただけるとありがたい。

市長

野口委員どうですか。

野口委員

本当に地域は、皆さんおっしゃるように大事だと思う。

年々子供の数が減っているのも、町内単位の育成会も力が弱くなっている。コロナ禍にもよって、確かに行事も減っているから余計その関わりが確かにここ数年減っていると思う。やはり育成会を利用するなり、その自治会を利用するなりして、そういった呼びかけみたいな、育成会の中での何かそれをしてもらうような呼びかけが必要だと思いました。

市長

では、皆様の声をお聞きして、教育長いかがでしょうか。

教育長

この件に関しては、学校教育のみならず、家庭教育、社会教育、先ほどの地域の課題としてというお話もあった。そういったところにも大きく関わってくることをしっかり意識しながら、取り組む必要が、さらに重要になってきていると実感した。

まず、足利っ子のスマホ携帯ルール。明日のPTA 会長研修会の中でも、一緒にできることは何だ、やらなければならないことは何だっていうところを議論して、一緒に携帯ルールを作っていきたいと、今取り組みを始めている。

先ほども、なかなかこれが浸透しなかったというような話があった。ぜひ、PTA とも連携しながら、地域を巻き込んで、生きて働くルールづくりの啓発等ができるといいと思っている。

特に学校で取り組む中では、授業の中でも、家庭学習の中でもデジタル化が進んで、生活の中から離せることはなかなか難しいと思っている。

ただ、その24時間をどう使っていくのかというところを、これからの子供だけじゃなくて親も含めて一緒に考えさせていくことが大事。

今、子供たちの話を聞くと、スマホがやりたいから、何かを削らなきゃいけない。睡眠時間を削るだとか、或いは他の別のものを削るとかでもスマホをやる、ゲームをやる時間を確保するふうになっている。今後モラルの部分

も大切ですし、またデジタルシティズンシップの、どう上手に使っていくかも、今後、重要になっていると思う。その辺のところについて、学校教育とそして家庭教育、社会教育も含めて、一緒に考えていきたい。

そういったところを今後具体的な施策として、具体的な取り組みが何ができるんだ。当面のもの、長期的なものを考えながら、取り組んでいければと思っている。その時は、また市長、副市長、ご相談させていただきたい。

市長

ありがとうございました。

教育長から PTA 会長の集まりがあるとのことですので、笠原委員がおっしゃったように全国的な問題でない部分もある、そうでないところもあるけれど、特にこの足利市、他の市町村に比べて突出して多い。

なぜそうなっているのか。それによってどのような弊害が起こっていった、どのような関連性があるかという影響を子どもたちに与えているのかをきちんと伝えていく必要があると思った。

わかりやすく、少しセンセーショナルな言い方でもはっきり伝えて、皆で考えていかななくてはならない問題。足利市がそのようになっているのは、私たち全員が問題意識を持たなくてはならないと感じた。

副市長

携帯の問題が全国に波及すれば、文科省も課題の解決に取り組んで、できればドコモや a u も。その下で我々地域も努力すると少し前進が図れると思う。

市長

ありがとうございました。

それでは、時間も参りましたので、本日の議題につきましては、終了します。

○閉会 午前 11 時 30 分